

清須市  
子育て支援に関するアンケート調査  
結果報告書  
(概要版)

令和6年3月  
清須市



# 目 次

<b>1</b>	<b>ニーズ調査概要</b> .....	<b>1</b>
	(1) 調査の目的 .....	1
	(2) 調査の対象 .....	1
	(3) 調査の方法 .....	1
	(4) 調査期間 .....	1
	(5) 回収状況 《2月26日現在》 .....	1
<b>2</b>	<b>ニーズ調査結果概要</b> .....	<b>2</b>
	(1) 子育て家庭の実態 .....	2
	(2) 保護者の就労状況 .....	12
	(3) 保育・教育ニーズ .....	18
	(4) 病気の時の対応 .....	23
	(5) 一時預かり .....	25
	(6) 放課後の過ごし方 .....	28
	(7) 「こども誰でも通園制度（仮称）」 .....	29
	(8) 子育て環境全般 .....	30

# 1 ニーズ調査概要

## (1) 調査の目的

清須市子ども・子育て支援事業計画策定のために市内に居住する就学前の子どもがいる世帯、小学生の子どもがいる世帯を対象に、子育て支援に関する施設やサービスの利用状況、今後の利用希望等の子育て支援サービスに関するニーズを把握するために実施しました。

## (2) 調査の対象

- ①就学前の子どもがいる世帯：2,000世帯
- ②小学生の子どもがいる世帯：1,000世帯

## (3) 調査の方法

市内に居住する就学前の子どもがいる世帯、小学生の子どもがいる世帯の保護者に郵送配布、回収については郵送及びWebアンケートを併用して実施しました。

## (4) 調査期間

令和6年1月31日～2月22日

## (5) 回収状況 《2月26日現在》

	配布数	回収数	有効回収率
就学前児童	2,000	846	42.3%
小学生	1,000	480	48.0%

※回収数のうちWeb回答は、就学前児童では408人、小学生では250人となっています。

		西枇杷島地区	清洲地区	新川地区	春日地区
送付数		797	1,099	676	428
回収数	就学前児童	213	291	192	105
	小学生	123	198	100	56
	合計	336	489	292	161
回収率		約42.2%	約44.5%	約43.2%	約37.6%

※回収数は居住地区が「わからない」40、「無回答」8を含まない

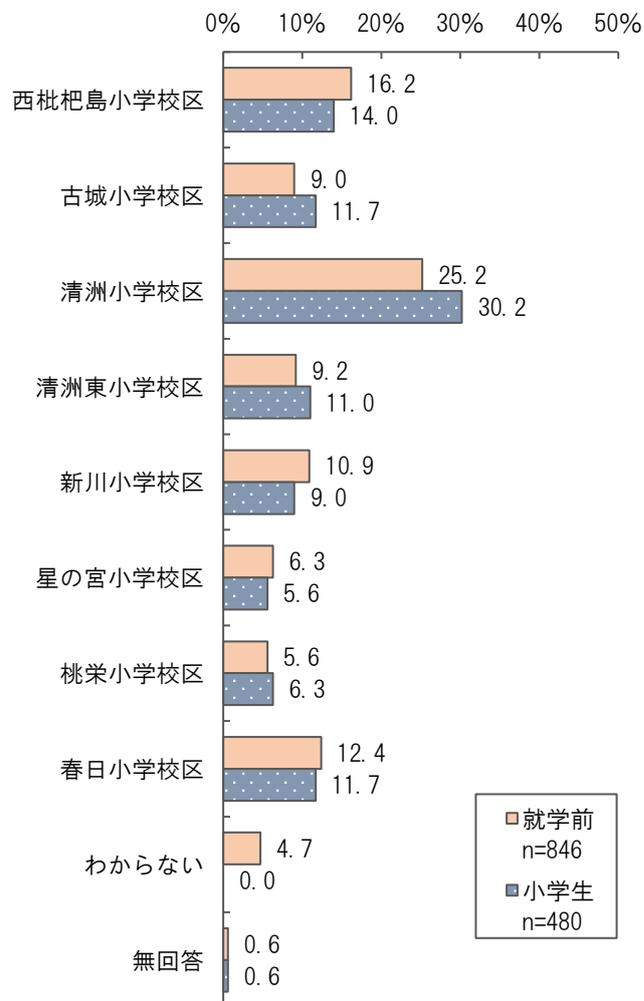
## 2 ニーズ調査結果概要

### (1) 子育て家庭の実態

#### ① 居住している地域

- 回答者が居住している小学校区は、就学前では、「清洲小学校区」が25.2%と最も高く、次いで「西枇杷島小学校区」（16.2%）、「春日小学校区」（12.4%）となっています。
- 小学生では、「清洲小学校区」が30.2%と最も高く、次いで「西枇杷島小学校区」（14.0%）、「古城小学校区」「春日小学校区」（各11.7%）となっています。

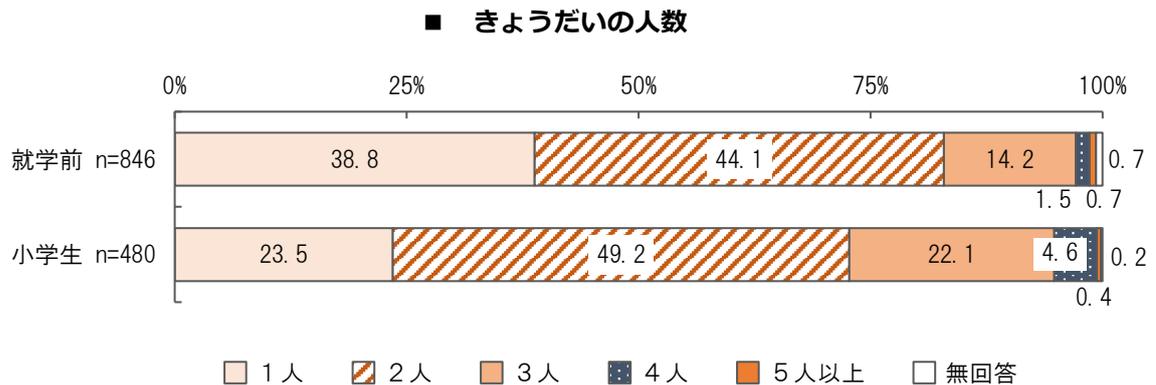
#### ■ 居住している小学校区



## ② 子どもの人数

○子どものきょうだいの人数（本人含む）は、就学前では、「2人」が44.1%と最も高く、次いで「1人」（38.8%）、「3人」（14.2%）となっています。

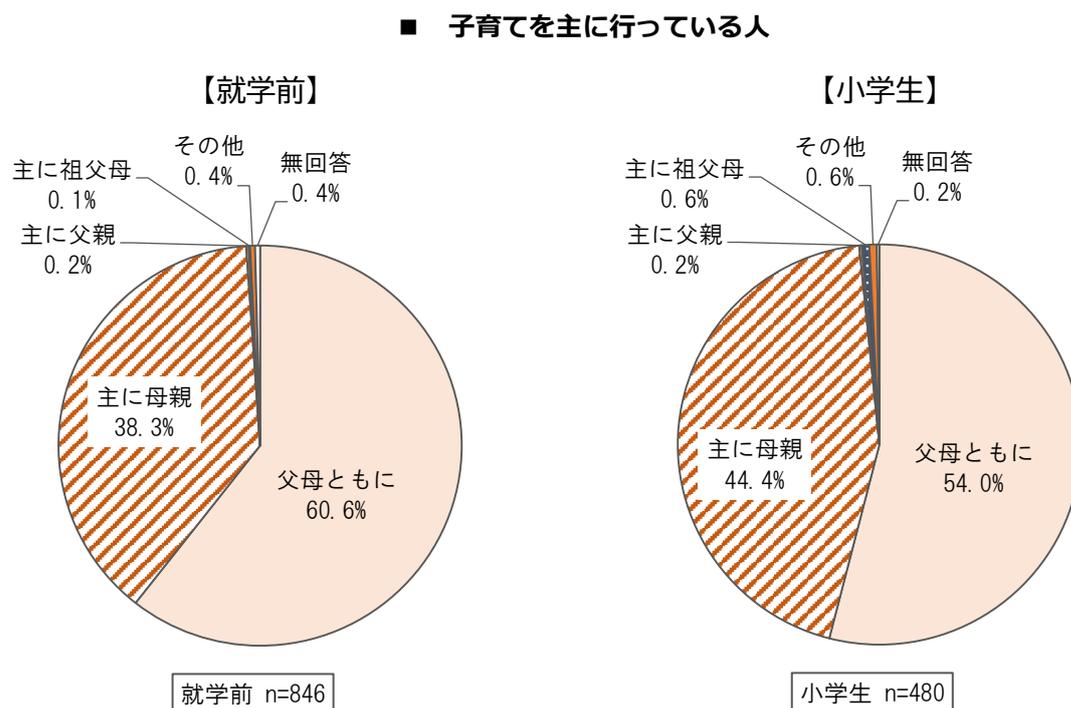
○小学生では、「2人」が49.2%と最も高く、次いで「1人」（23.5%）、「3人」（22.1%）となっています。



## ③ 主な保育者

○子育て（教育を含む）を主に行っているのは、就学前では、「父母ともに」が60.6%と最も高く、次いで「主に母親」が38.3%となっています。

○小学生では、「父母ともに」が54.0%と最も高く、次いで「主に母親」が44.4%となっています。

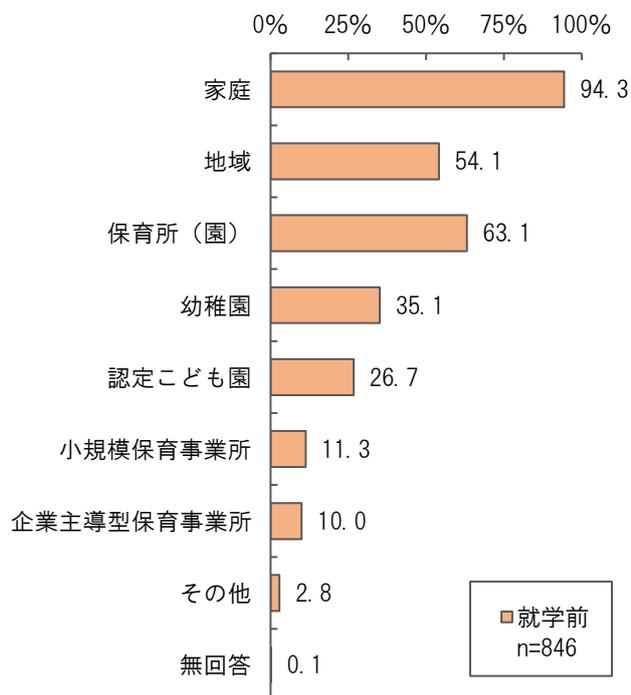


## ④ 子育てに影響すると思われる環境

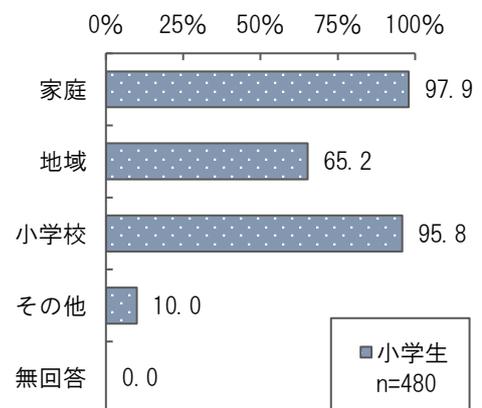
○子育て（教育を含む）に影響すると思われる環境は、就学前では、「家庭」が94.3%と最も高く、次いで「保育所（園）」（63.1%）、「地域」（54.1%）、「幼稚園」（35.1%）となっています。

○小学生では、「家庭」が97.9%と最も高く、次いで「小学校」（95.8%）、「地域」（65.2%）となっています。

## ■ 子育てに影響すると思われる環境（就学前）



## ■ 子育てに影響すると思われる環境（小学生）



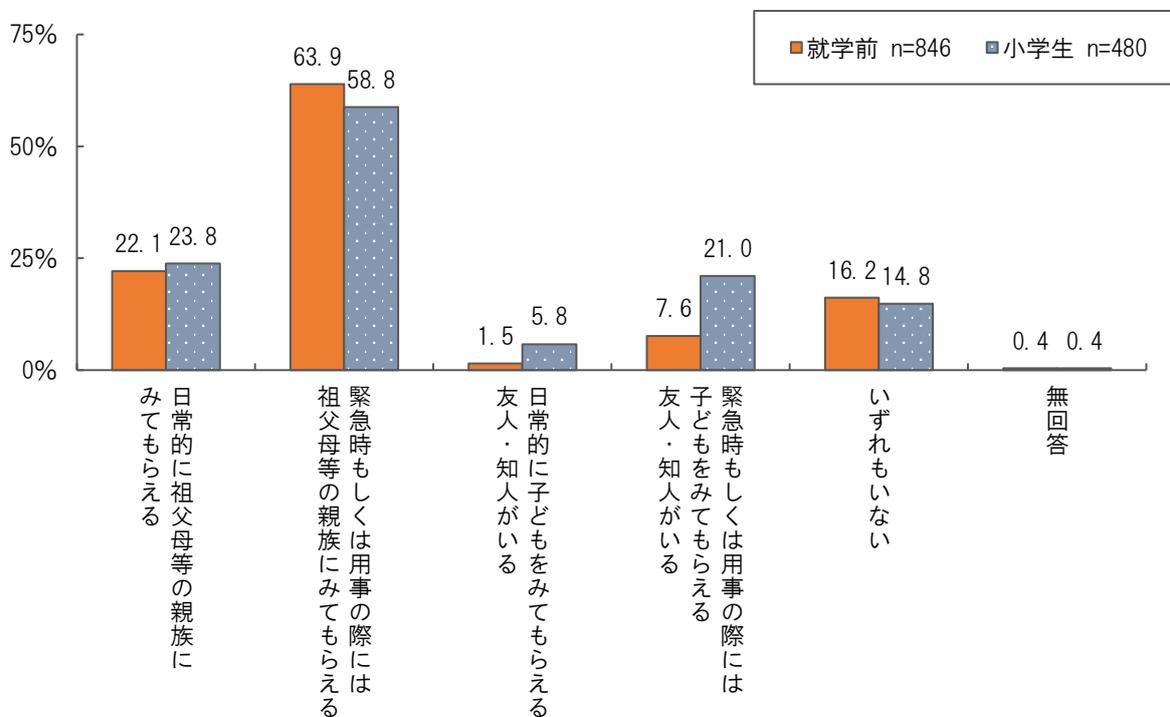
## ⑤ 子育てを手助けする親族・知人について

○子育てを手助けしてくれる親族・知人などの状況を見ると、就学前では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が63.9%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が22.1%となっています。

一方、「いずれもない」は16.2%となっています。

○小学生では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が58.8%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が23.8%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が21.0%となっています。一方、「いずれもない」は14.8%となっています。

■ 子育てを手助けしてくれる親族・知人などの状況



## ⑥ 子育てをする上で気軽に相談できる人や場所の有無

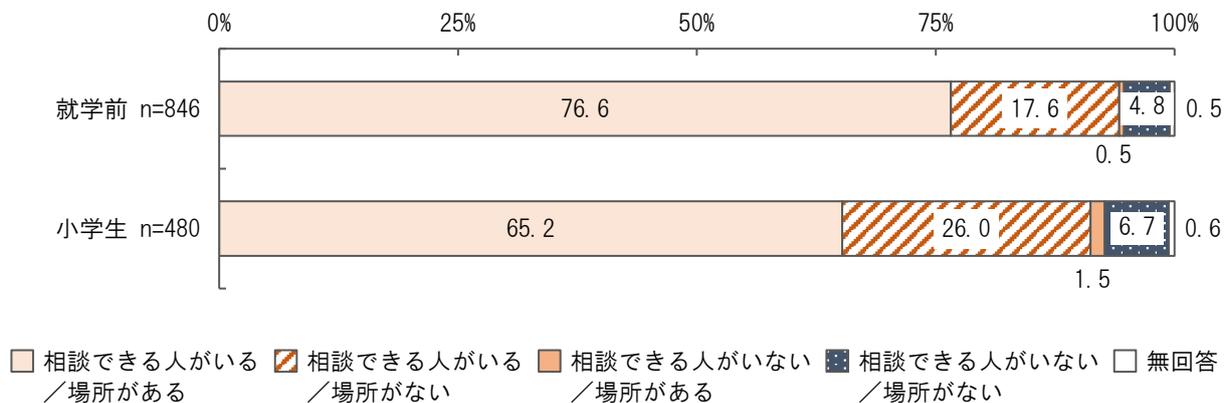
○気軽に相談できる人や場所の有無をみると、就学前では、「相談できる人がいる／場所がある」が76.6%と最も高く、次いで「相談できる人がいる／場所がない」が17.6%となっています。また、「相談できる人がいる”人は9割強、「相談できる場所がある”人は8割弱となっています。

一方、「相談できる人がいない／場所がない」は4.8%となっています。

○小学生では、「相談できる人がいる／場所がある」が65.2%と最も高く、次いで「相談できる人がいる／場所がない」が26.0%となっています。また、「相談できる人がいる”人は9割強、「相談できる場所がある”人は6割強となっています。

一方、「相談できる人がいない／場所がない」は6.7%となっています。

■ 気軽に相談できる人や場所の有無

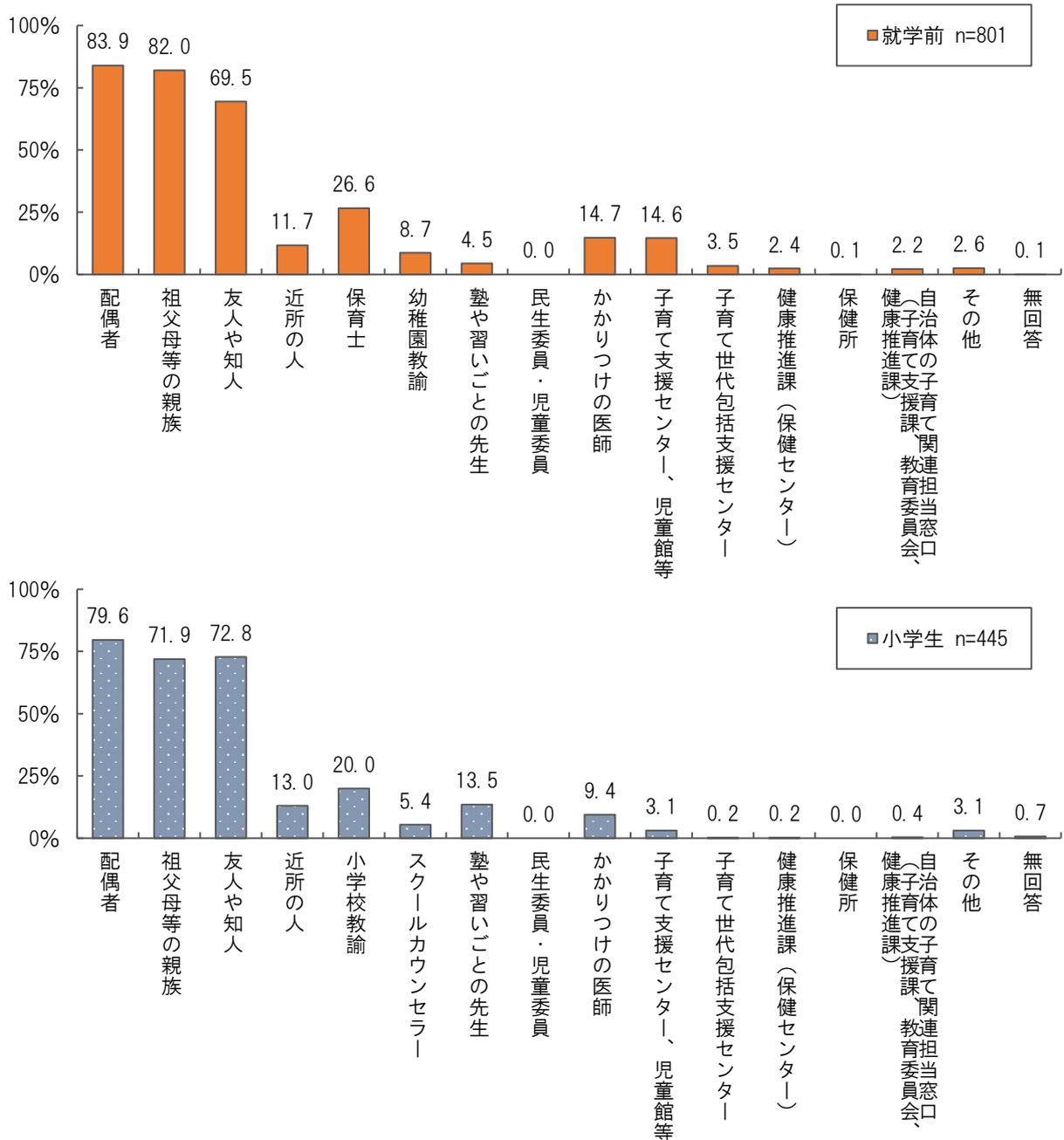


⑦ 子育てに関して、気軽に相談できる人や場所

○気軽に相談できる人や場所がある方の相談先は、「配偶者」が83.9%と最も高く、次いで、「祖父母等の親族」(82.0%)、「友人や知人」(69.5%)、「保育士」(26.6%)となっています。

○小学生では、「配偶者」が79.6%と最も高く、次いで「友人や知人」(72.8%)、「祖父母等の親族」(71.9%)、「小学校教諭」(20.0%)、「塾や習いごとの先生」(13.5%)となっています。

■ 子育ての相談先



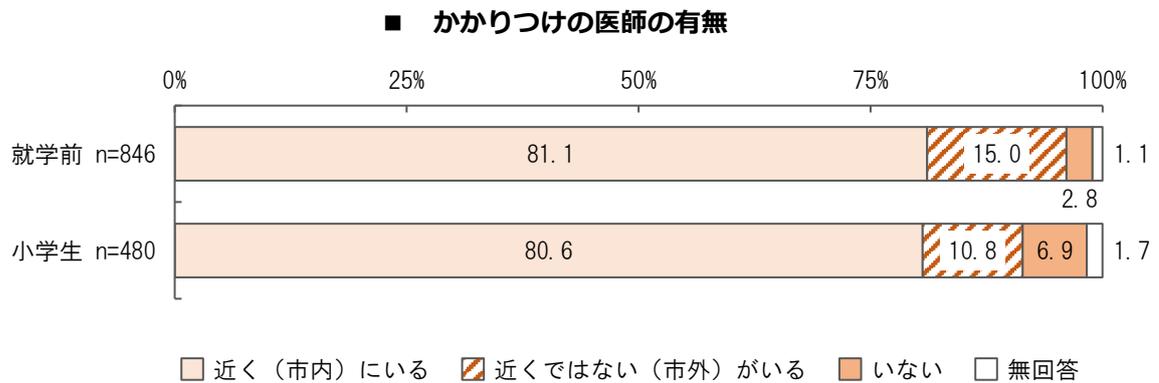
## ⑧ かかりつけの医師の有無

○けがや病気の時、診てくれたり、相談ができるかかりつけの医師の有無をみると、「近く（市内）にいる」が81.1%と最も高く、「近くではない（市外）がいる」（15.0%）を合わせた96.1%は、かかりつけの医師がいます。

一方、「いない」は2.8%となっています。

○小学生では、「近く（市内）にいる」が80.6%と最も高く、「近くではない（市外）がいる」（10.8%）を合わせた91.4%は、かかりつけの医師がいます。

一方、「いない」は6.9%となっています。

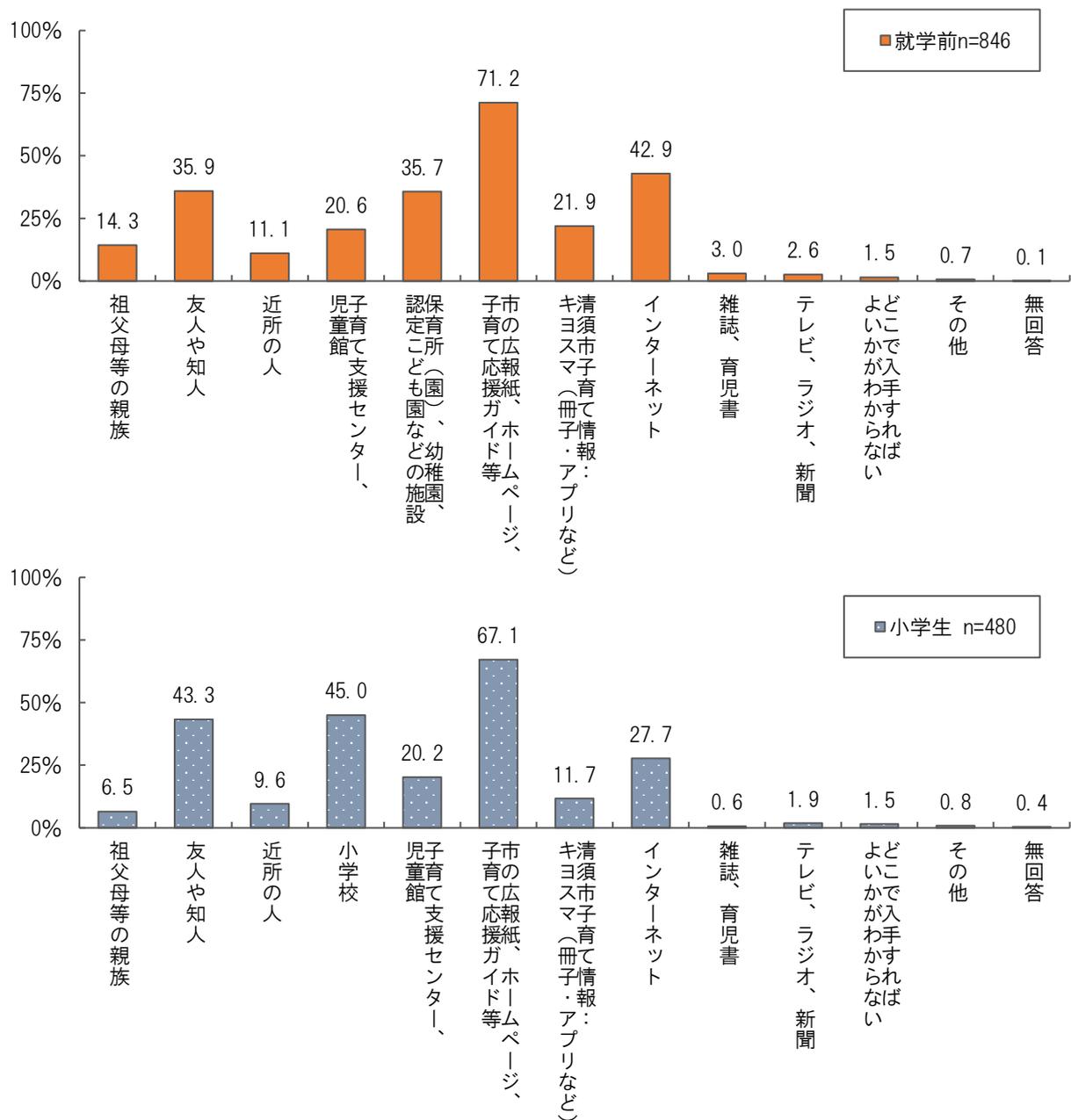


## ⑨ 子育てに関する情報の入手方法

○子育てに関する情報の入手方法をみると、就学前では、「市の広報紙、ホームページ、ガイド等」が71.2%と最も高く、次いで「インターネット」(42.9%)、「友人や知人」(35.9%)、「保育所(園)、幼稚園、認定こども園などの施設」(35.7%)となっています。

○小学生では、「市の広報紙、ホームページ、ガイド等」が67.1%と最も高く、次いで「小学校」(45.0%)、「友人や知人」(43.3%)、「インターネット」(27.7%)となっています。

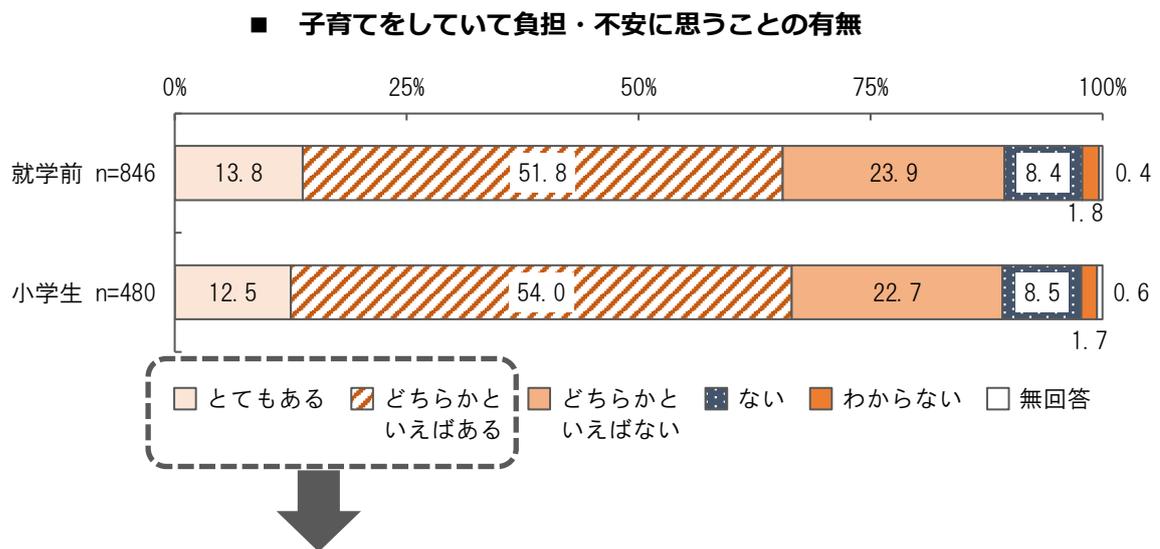
■ 子育てに関する情報の入手方法



## ⑩ 子育てをしていて負担・不安に思うことの有無

○子育てをしていて負担・不安に思うことがあるかについては、就学前では、「どちらかといえばある」が51.8%と最も高く、「とてもある」(13.8%)を合わせた負担・不安に思うことが“ある”人は6割強となっています。一方、負担・不安に思うことが“ない”(「どちらかといえばない」+「ない」)人は3割強となっています。

○小学生では、「どちらかといえばある」が54.0%と最も高く、「とてもある」(12.5%)を合わせた負担・不安に思うことが“ある”人は6割強となっています。一方、負担・不安に思うことが“ない”人は3割強となっています。

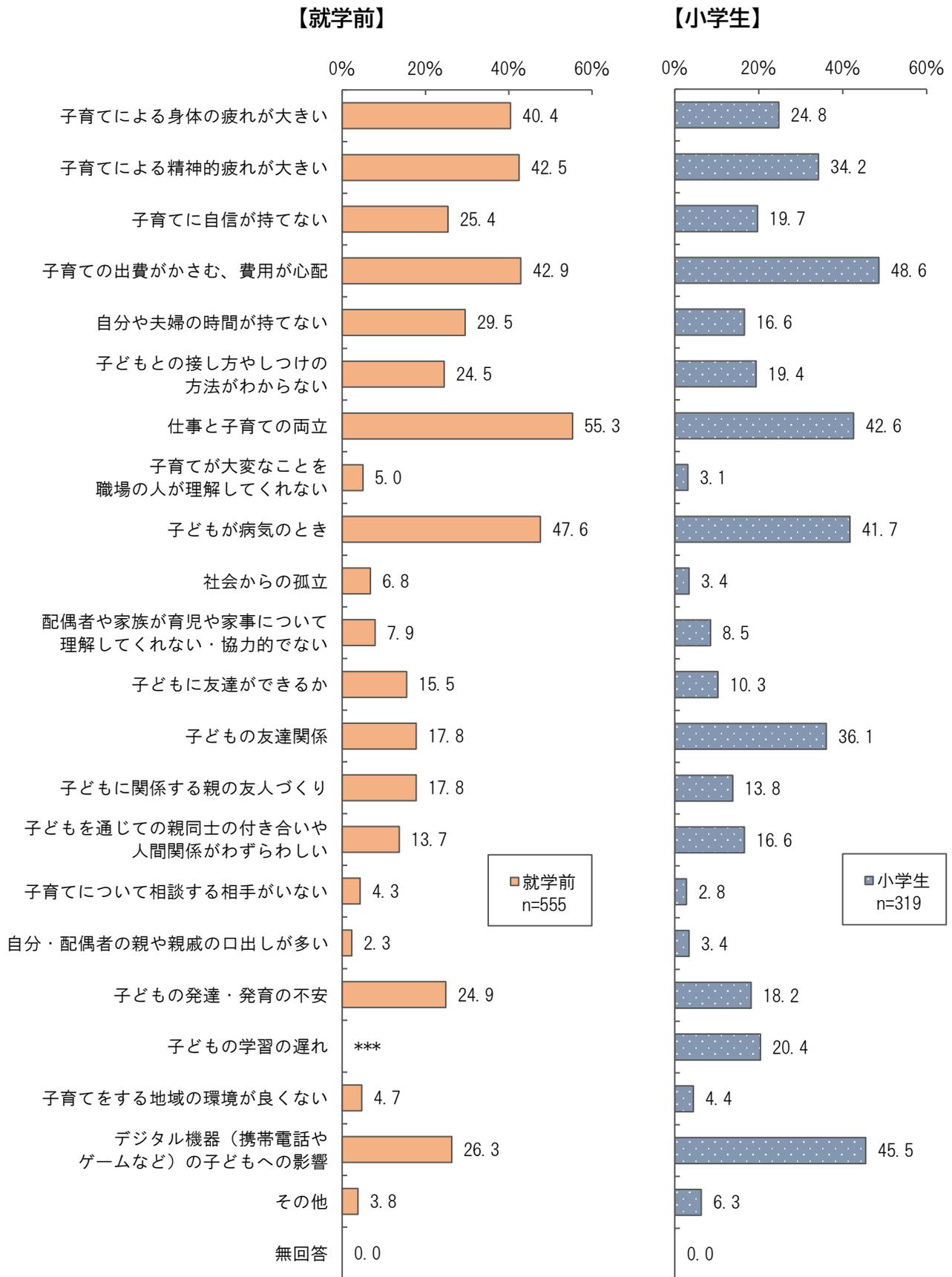


## ⑪ 具体的な子育ての負担・不安に思うこと

○具体的な子育ての負担・不安は、就学前では、「仕事と子育ての両立」(55.3%)、「子どもが病気の時」(47.6%)、「子育ての出費がかさむ、費用が心配」(42.9%)、「子育てによる精神的疲れが大きい」(42.5%)、「子育てによる身体の疲れが大きい」(40.4%)を上位にあげています。

○小学生では、「子育ての出費がかさむ、費用が心配」(48.6%)、「デジタル機器(携帯電話やゲームなど)の子どもへの影響」(45.5%)、「仕事と子育ての両立」(42.6%)、「子どもが病気の時」(41.9%)、を上位にあげています。

## ■ 子育ての不安・負担の内容



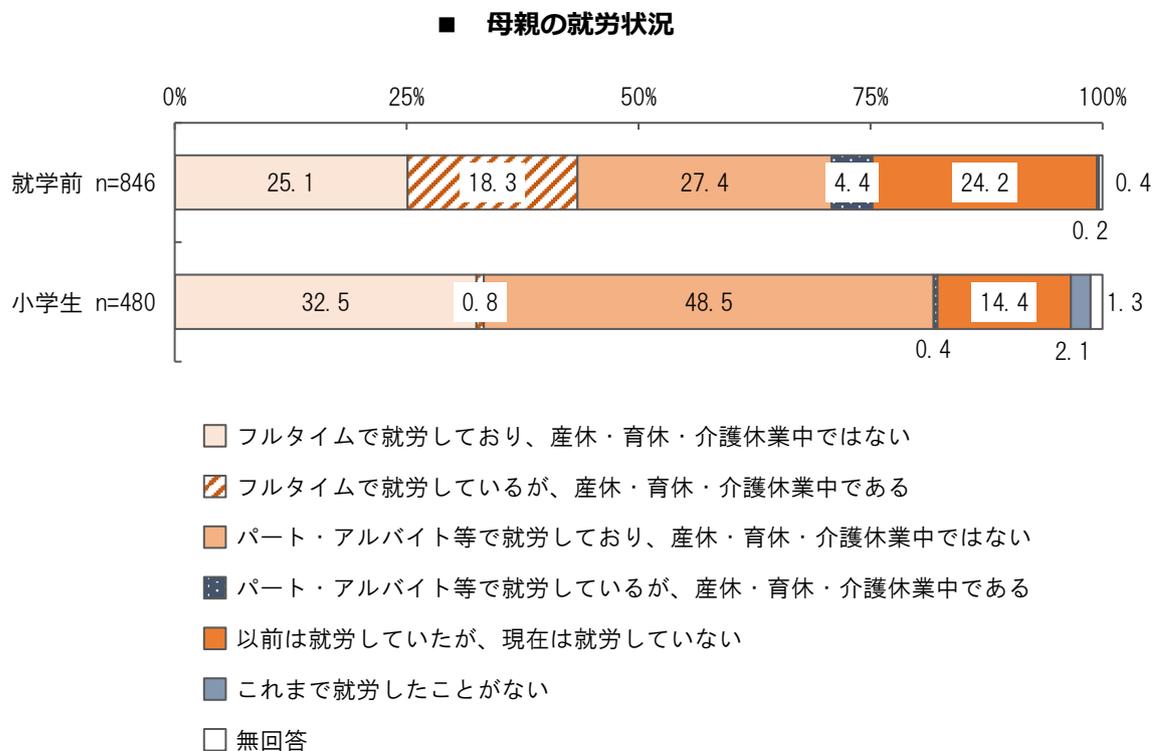
※「子どもの学習の遅れ」は就学前の回答選択肢にはありません。

## (2) 保護者の就労状況

### ① 母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、就学前では、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた“就労している（産休・育休・介護休業を取得中含む）”人は75.2%となっています。また、産休・育休・介護休業を取得中の人は22.7%となっています。

○小学生では、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた“就労している（産休・育休・介護休業を取得中含む）”人は82.2%となっています。また、産休・育休・介護休業を取得中の人は1.2%となっています。



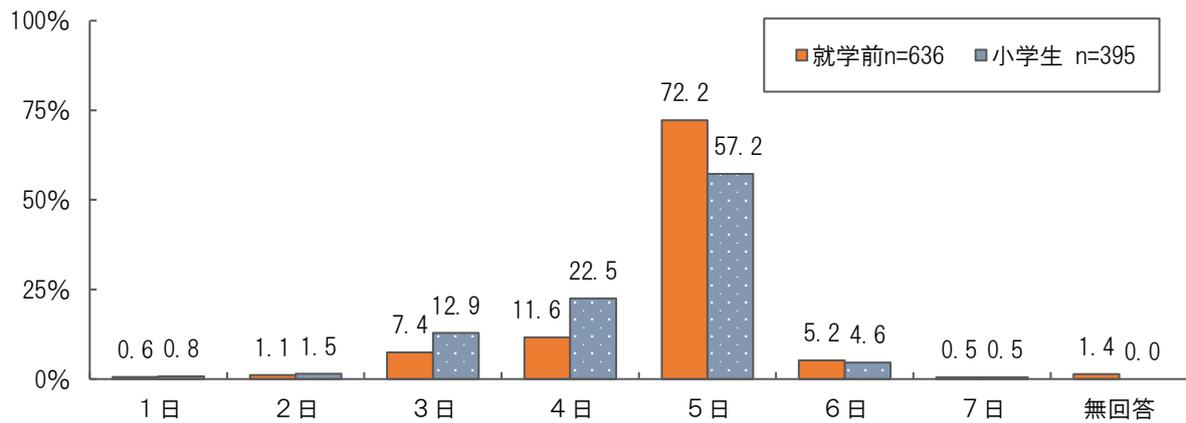
※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度の就労

※パート・アルバイト等：「フルタイム」以外の就労

## ② 母親の1週間当たりの就労日数

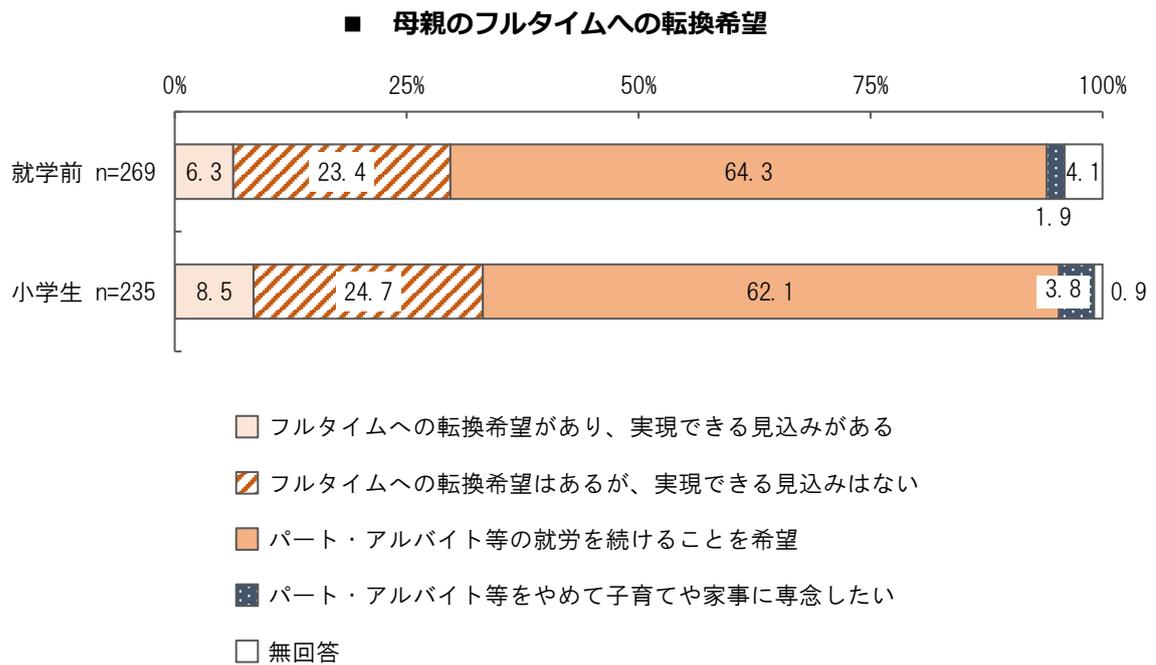
- 母親の1週当たりの就労日数は、就学前では、「5日」が72.2%と最も高く、次いで「4日」(11.6%)となっています。
- 小学生では、「5日」が57.2%と最も高く、次いで「4日」(22.5%)、「3日」(12.9%)、となっています。

## ■ 母親の1週あたりの平均就労日数



## ③ 母親のフルタイムへの転換希望

- 母親のフルタイムへの転換希望をみると、就学前では、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が64.3%と最も高くなっています。また、「フルタイムへの転換希望あり」（「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」+「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」）は約3割（29.7%）となっています。
- 小学生では、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が62.1%と最も高くなっています。また、「フルタイムへの転換希望あり」は3割強（33.2%）となっています。



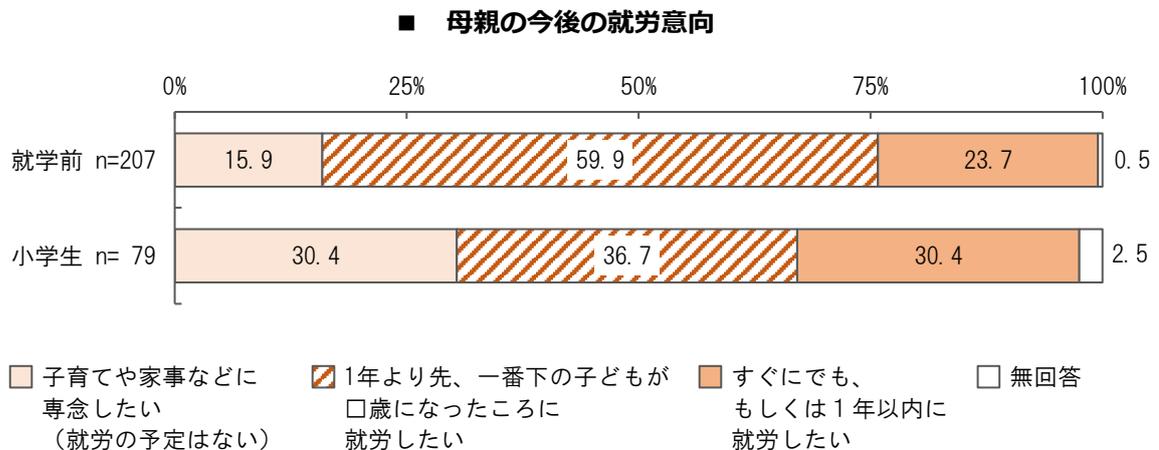
※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度の就労  
 ※パート・アルバイト等：「フルタイム」以外の就労

## ④ 現在働いていない母親の今後の就労意向

○今後の母親の就労意向をみると、就学前では、「1年より先、一番下の子どもが□歳になったところに就労したい」が59.9%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(23.7%)となっています。

一方、「子育ては家事などに専念したい(就労の予定はない)」は15.9%となっています。

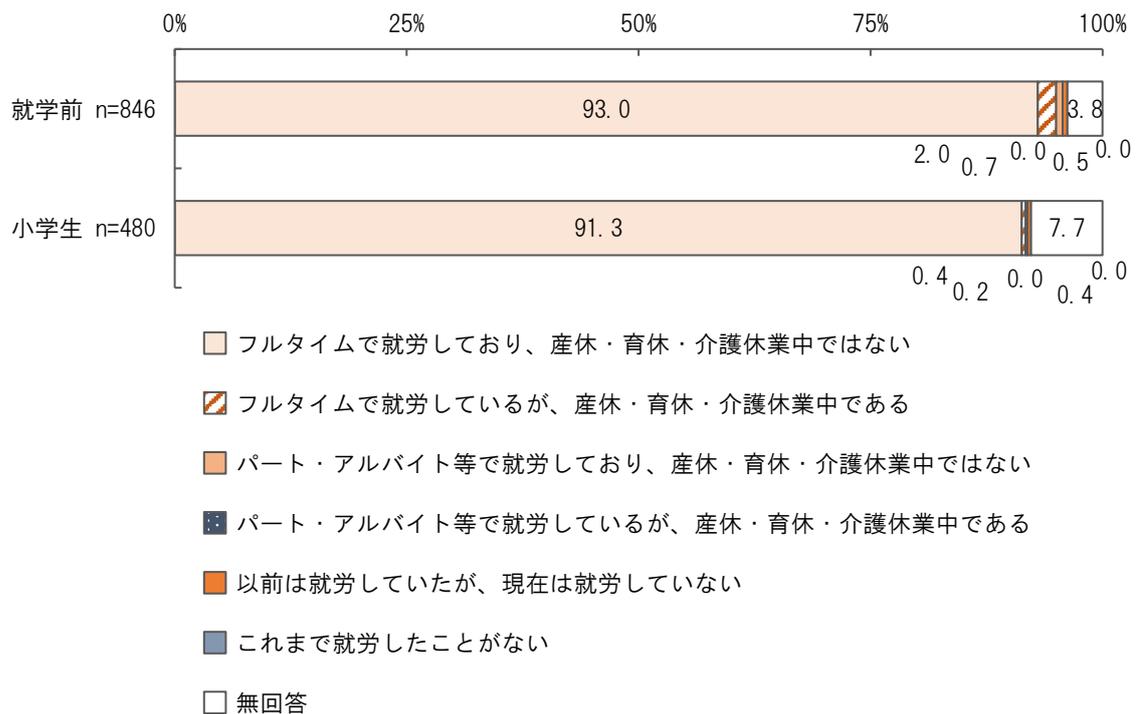
○小学生では、「1年より先、一番下の子どもが□歳になったところに就労したい」が36.7%と最も高くなっています。また、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」、「子育ては家事などに専念したい(就労の予定はない)」はともに30.4%となっています。



## ⑤ 父親の就労状況

- 父親の就労状況をみると、就学前では、「フルタイムで就労しており、産休・介護休業中ではない」が9割以上を占めています。
- 小学生も就学前同様に、「フルタイムで就労しており、産休・介護休業中ではない」が9割以上を占めています。

## ■ 父親の就労状況



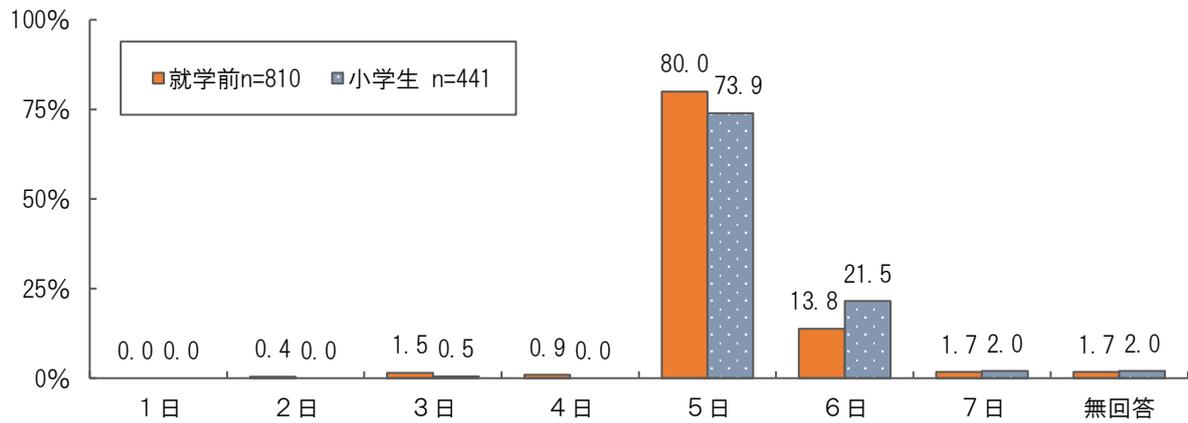
※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度の就労  
 ※パート・アルバイト等：「フルタイム」以外の就労

## ⑥ 父親の1週間あたりの就労日数

○父親の1週あたりの就労日数は、就学前では、「5日」が80.0%と最も高く、次いで「6日」(13.8%) となっています。

○小学生では、「5日」が73.9%と最も高く、次いで「6日」(21.5%) となっています。

## ■ 父親の1週あたりの平均就労日数

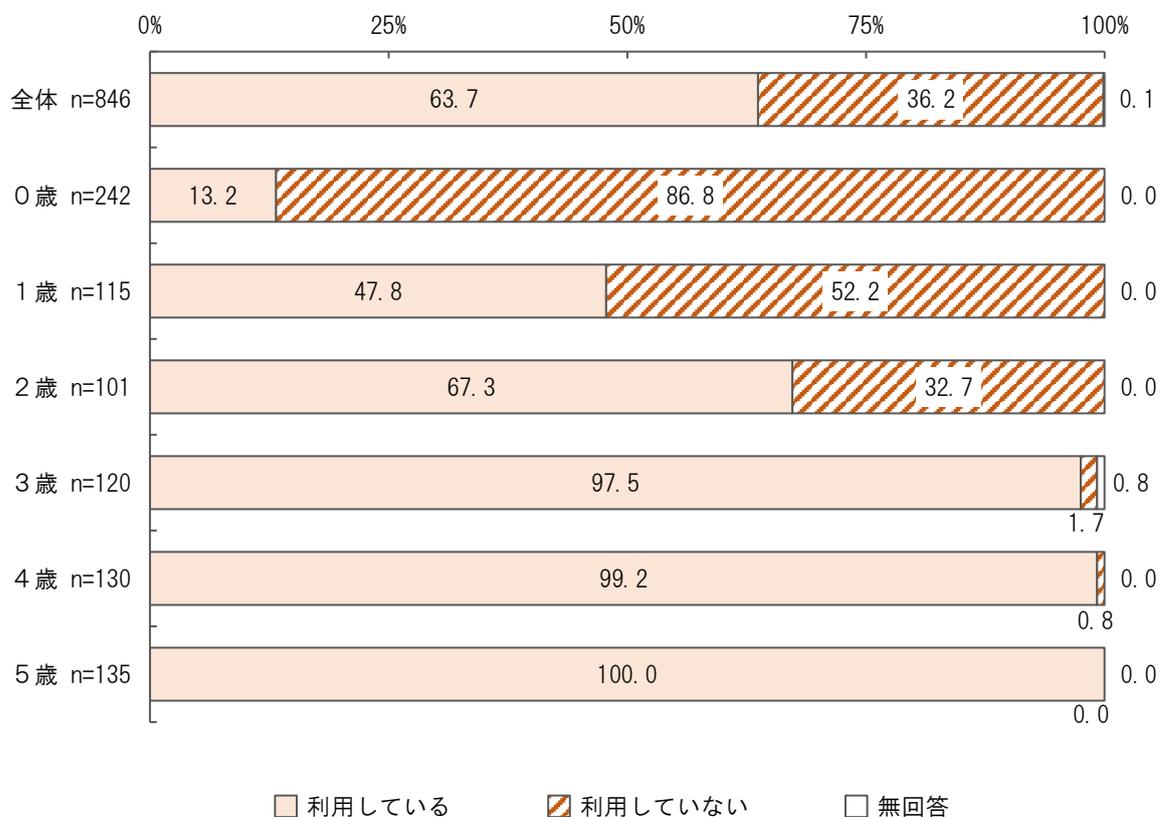


### (3) 保育・教育ニーズ

#### ① 保育・教育サービス利用状況

- 幼稚園や保育園などの『定期的な教育・保育の事業』の現在の利用状況をみると、「利用している」は63.7%、「利用していない」は36.2%となっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ利用割合は高くなり、0歳では約1割、1歳では約5割、2歳では約7割、3歳以上では9割以上が利用しています。

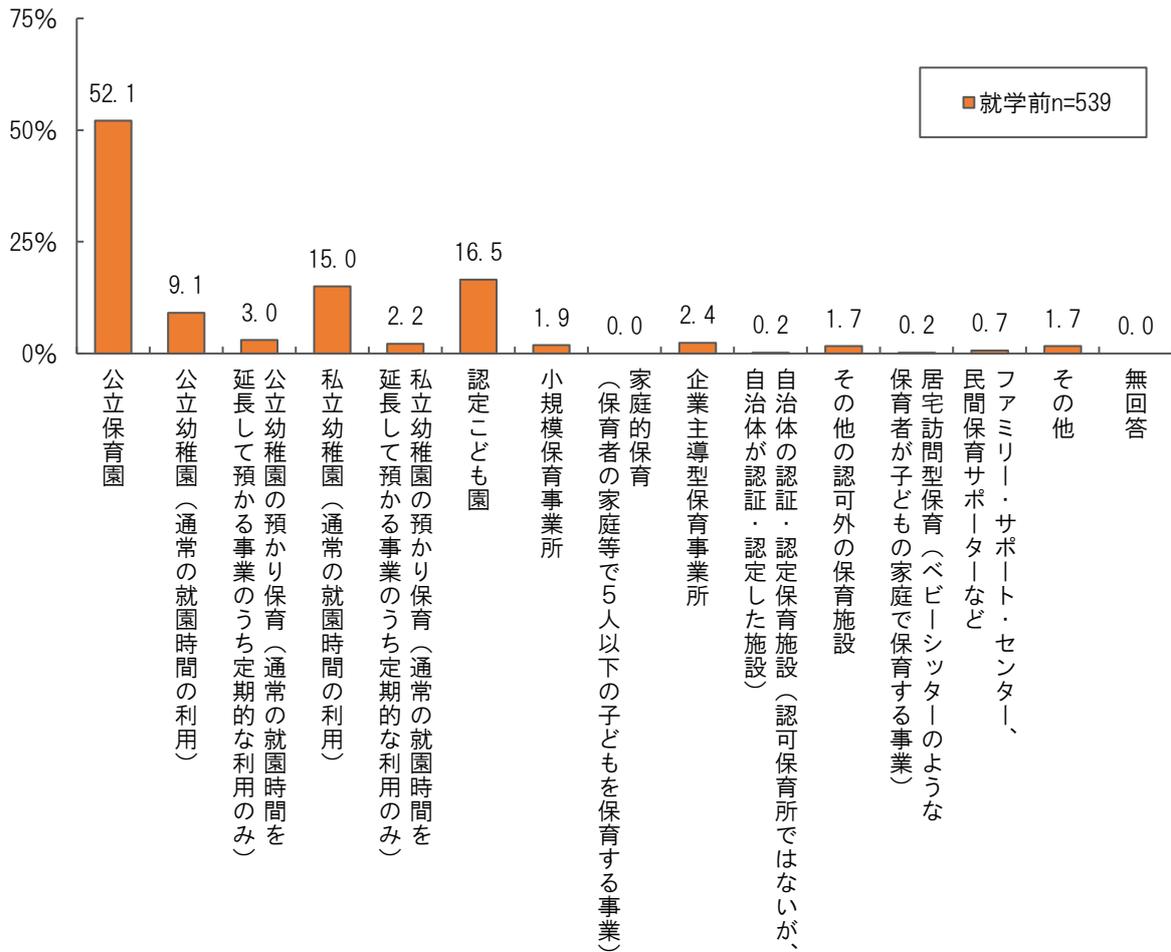
■ 定期的な教育・保育事業の利用の有無【就学前】※年齢別



## ② 平日に利用している教育・保育事業

○平日に定期的にご利用している教育・保育の事業は、「公立保育園」が52.1%と最も高く、次いで「認定こども園」(16.5%)、「私立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(15.0%)となっています。

## ■ 平日に定期的にご利用している教育・保育の事業



○年齢別にみると、いずれの年齢も「公立保育園」の利用割合が最も高くなっています。  
また、0歳では「企業主導型保育事業所」(25.0%)、1歳では「認定こども園」(27.3%)  
の利用割合が他の年齢に比べ高くなっています。

上段：件数、下段：%

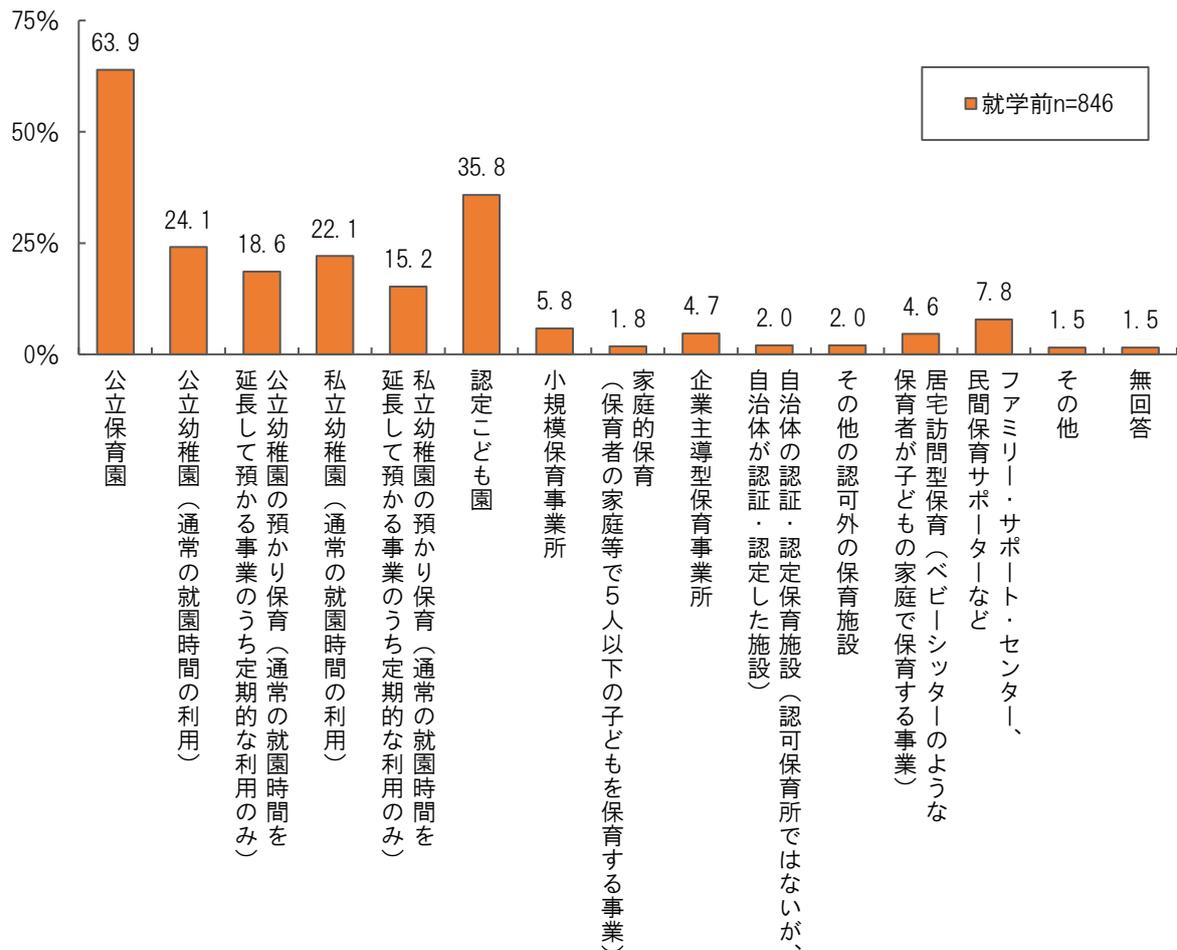
	全体	公立保育園	公立幼稚園 (通常の就園時間の利用)	公立幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)	私立幼稚園 (通常の就園時間の利用)	私立幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)	認定こども園	小規模保育事業所	家庭的保育 (保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業)	企業主導型保育事業所	自治体の認証・認定保育施設 (認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設)	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育 (ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業)	民間保育サポーターなど	ファミリー・サポート・センター、 民間保育サポーターなど	その他	無回答		
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全体	539	281	49	16	81	12	89	10	0	13	1	9	1	4	9	0			
	100.0	52.1	9.1	3.0	15.0	2.2	16.5	1.9	0.0	2.4	0.2	1.7	0.2	0.7	1.7	0.0			
0歳	32	11	1	0	1	0	5	4	0	8	0	1	0	0	0	1	0		
	100.0	34.4	3.1	0.0	3.1	0.0	15.6	12.5	0.0	25.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0		
1歳	55	28	0	2	0	0	15	5	0	2	1	1	1	0	2	0			
	100.0	50.9	0.0	3.6	0.0	0.0	27.3	9.1	0.0	3.6	1.8	1.8	1.8	0.0	3.6	0.0			
2歳	68	40	3	1	10	0	8	1	0	3	0	1	0	0	3	0			
	100.0	58.8	4.4	1.5	14.7	0.0	11.8	1.5	0.0	4.4	0.0	1.5	0.0	0.0	4.4	0.0			
3歳	117	60	16	4	20	2	20	0	0	0	0	2	0	0	2	0			
	100.0	51.3	13.7	3.4	17.1	1.7	17.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	1.7	0.0			
4歳	129	69	15	3	24	6	18	0	0	0	0	2	0	1	0	0			
	100.0	53.5	11.6	2.3	18.6	4.7	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.8	0.0	0.0			
5歳	135	71	14	6	26	4	22	0	0	0	0	2	0	3	1	0			
	100.0	52.6	10.4	4.4	19.3	3.0	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	2.2	0.7	0.0			

※最も割合が高いところに網掛けをしています。

## ③ 定期的に利用したい教育・保育事業

○現在の利用状況にかかわらず、平日に定期的に利用したい教育・保育の事業は、「公立保育園」が63.9%と最も高く、次いで「認定こども園」(35.8%)、「公立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(24.1%)、「私立幼稚園(通常の就園時間の利用)」(22.1%)となっています。

## ■ 平日に定期的に利用したい教育・保育の事業



○年齢別にみると、いずれの年齢も「公立保育園」が最も高く、次いで「認定こども園」となっています。

上段：件数、下段：%

	全体	公立保育園	公立幼稚園 (通常の就園時間の利用)	公立幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)	私立幼稚園 (通常の就園時間の利用)	私立幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)	認定こども園	小規模保育事業所	家庭的保育 (保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業)	企業主導型保育事業所	自治体の認証・認定保育施設 (認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設)	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育 (ベビシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業)	民間保育サポーターなど	ファミリー・サポート・センター、 民間保育サポーターなど	その他	無回答	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数
全体	846	541	204	157	187	129	303	49	15	40	17	17	39	66	13	13		
	100.0	63.9	24.1	18.6	22.1	15.2	35.8	5.8	1.8	4.7	2.0	2.0	4.6	7.8	1.5	1.5		
0歳	242	170	75	60	52	33	104	30	8	24	8	3	12	19	5	3		
	100.0	70.2	31.0	24.8	21.5	13.6	43.0	12.4	3.3	9.9	3.3	1.2	5.0	7.9	2.1	1.2		
1歳	115	76	32	16	24	13	49	7	2	6	2	2	5	5	1	1		
	100.0	66.1	27.8	13.9	20.9	11.3	42.6	6.1	1.7	5.2	1.7	1.7	4.3	4.3	0.9	0.9		
2歳	101	63	26	19	26	19	34	2	0	1	1	2	5	8	2	1		
	100.0	62.4	25.7	18.8	25.7	18.8	33.7	2.0	0.0	1.0	1.0	2.0	5.0	7.9	2.0	1.0		
3歳	120	74	27	18	26	18	37	3	1	4	3	4	9	10	2	2		
	100.0	61.7	22.5	15.0	21.7	15.0	30.8	2.5	0.8	3.3	2.5	3.3	7.5	8.3	1.7	1.7		
4歳	130	78	24	22	28	26	38	4	3	5	2	3	5	10	0	3		
	100.0	60.0	18.5	16.9	21.5	20.0	29.2	3.1	2.3	3.8	1.5	2.3	3.8	7.7	0.0	2.3		
5歳	135	78	19	22	31	20	40	3	1	0	1	3	3	14	3	3		
	100.0	57.8	14.1	16.3	23.0	14.8	29.6	2.2	0.7	0.0	0.7	2.2	2.2	10.4	2.2	2.2		

※最も割合が高いところに網掛けをしています。

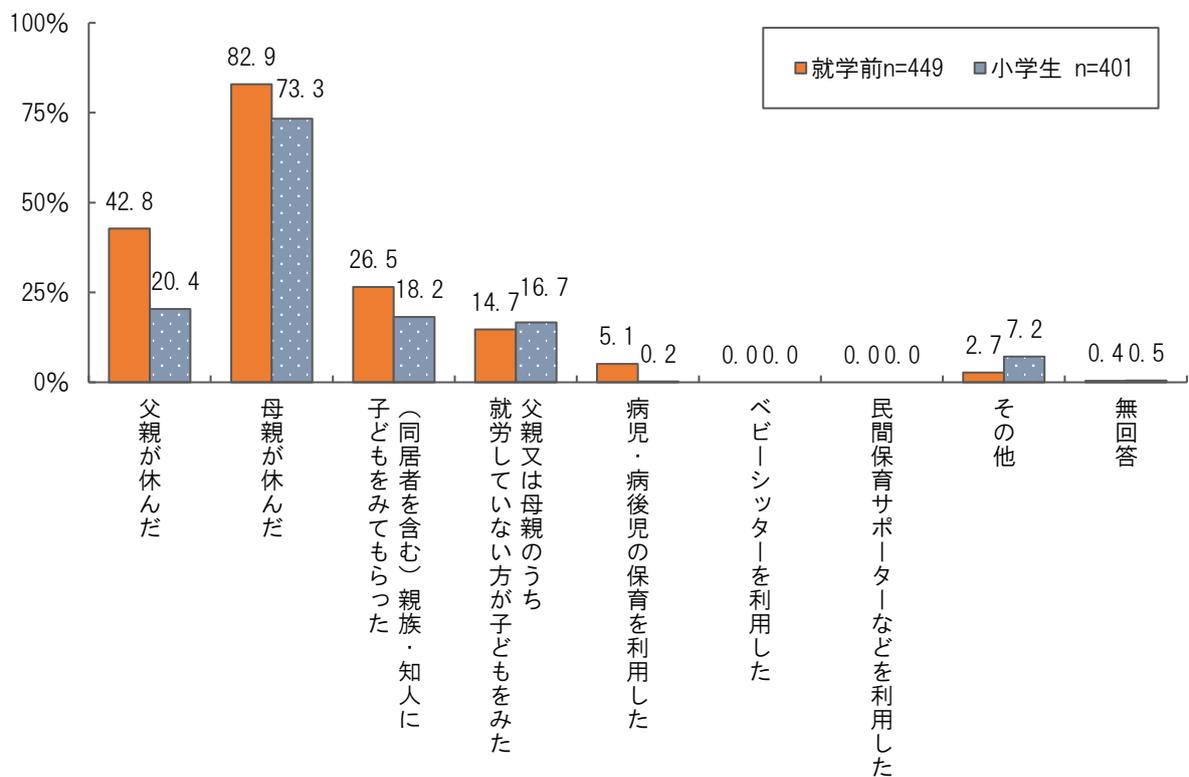
## (4) 病気の時の対応

### ① 病気の時の対応方法

○就学前の子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった時の対処法をみると、「母親が休んだ」が82.9%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が42.8%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が26.5%となっています。

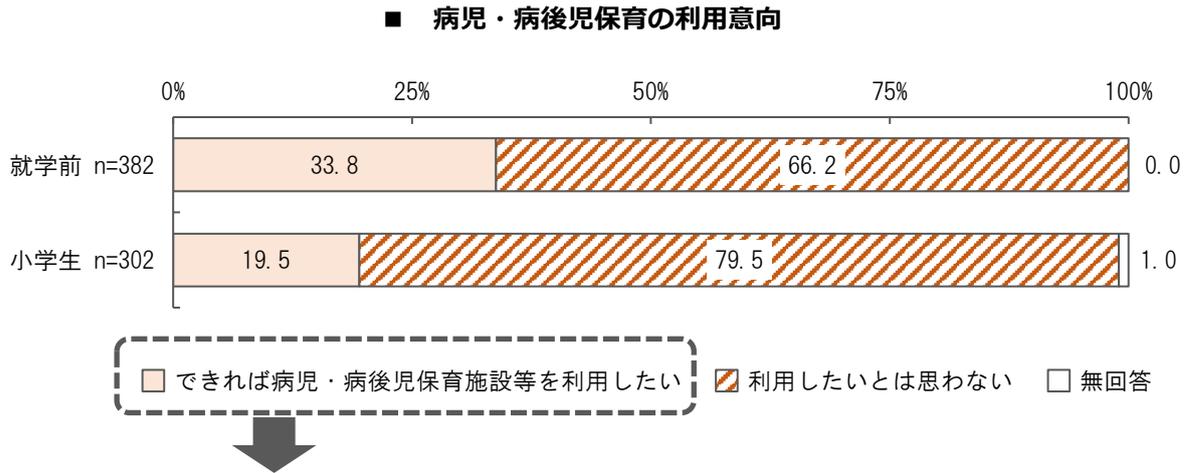
○小学生の子どもが病気やケガで学校を休んだ時の対処法をみると、「母親が休んだ」が73.3%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が20.4%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が18.2%となっています。

■ 病気の時の対応方法



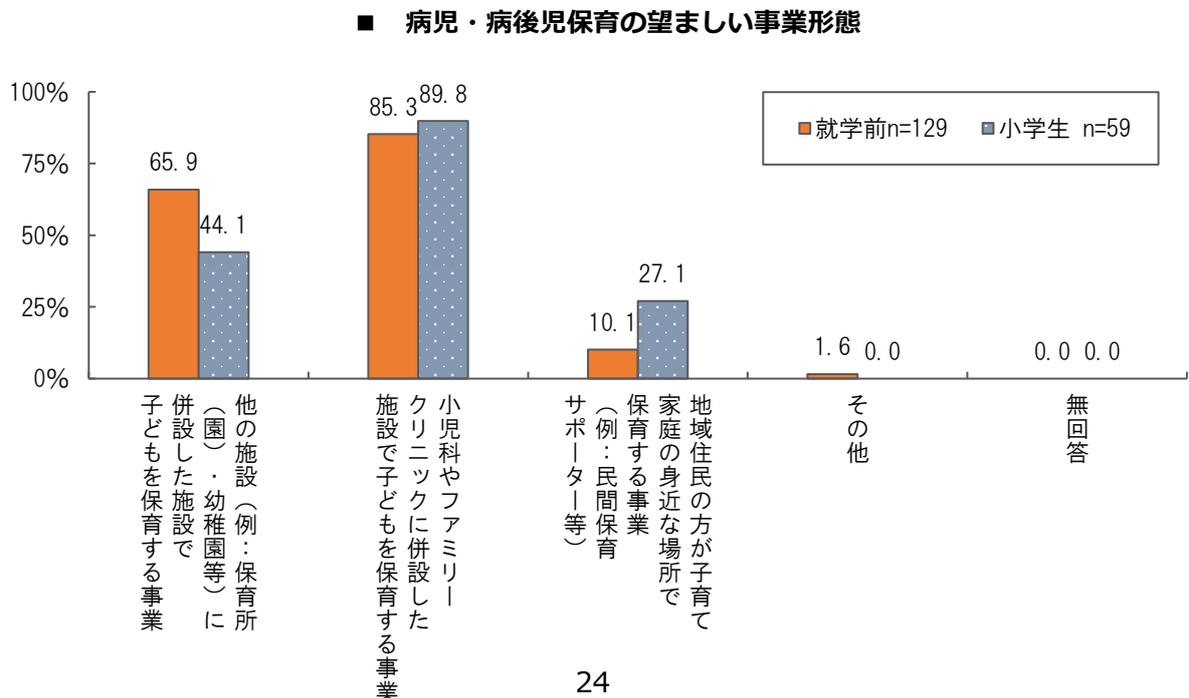
② 病児・病後児保育の利用意向

- 父親・母親が休んで対応した人の病児・病後児保育施設等の利用希望は、就学前では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は33.8%、一方、「利用したいとは思わない」は66.2%となっています。
- 小学生では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は19.5%、一方、「利用したいとは思わない」は79.5%となっています。



③ 病児・病後児保育の望ましい事業形態

- 病児・病後児保育施設等を利用する場合の望ましい事業形態は、就学前では、「小児科やファミリークリニックに併設した施設で子どもを保育する事業」が85.3%と最も高くなっています。
- 小学生では、「小児科やファミリークリニックに併設した施設で子どもを保育する事業」が89.8%と最も高くなっています。

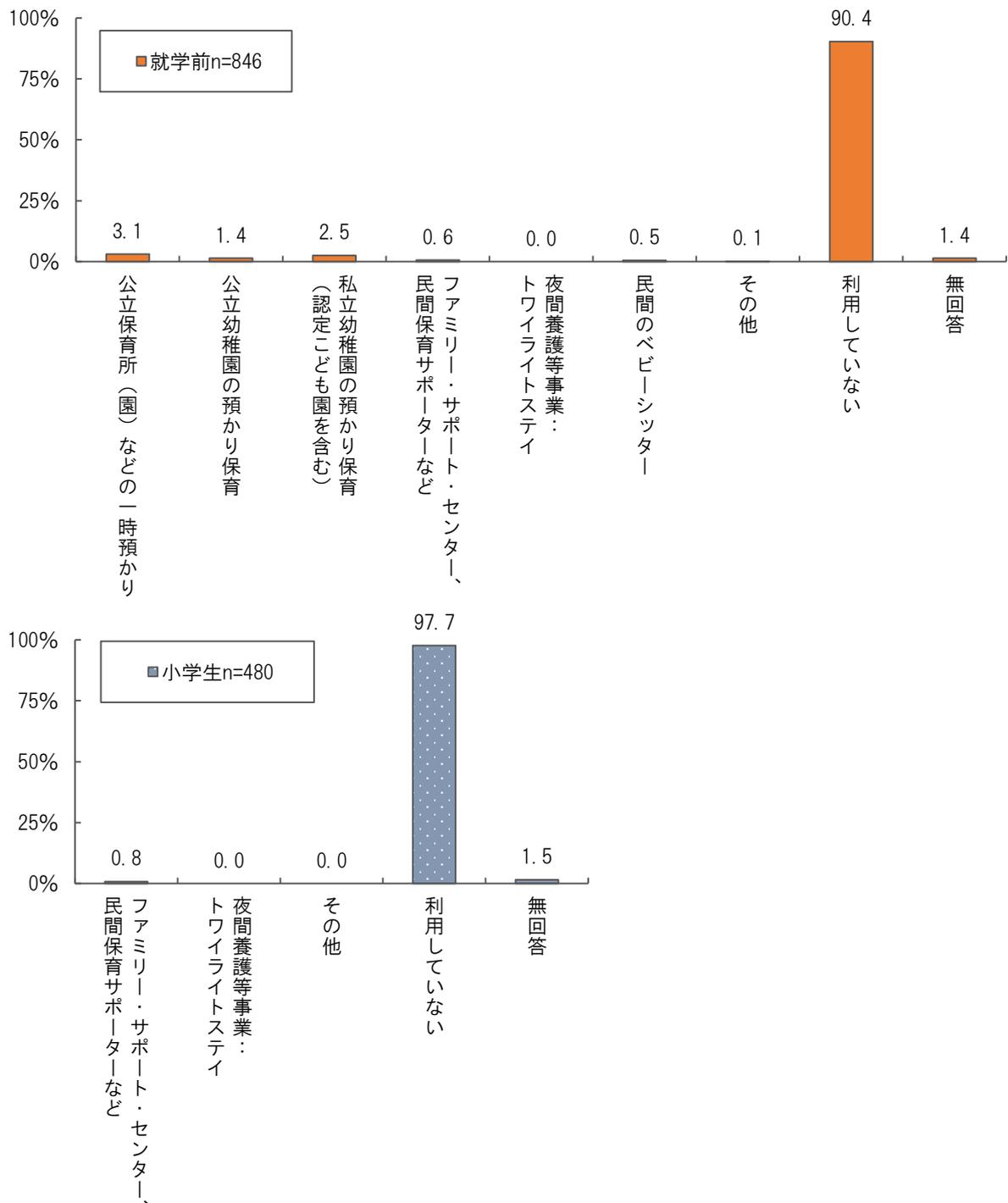


## (5) 一時預かり

## ① 一時預かり事業の利用状況

- 私用、親の通院、不定期の就労等の目的による一時預かり事業の利用状況をみると、就学前では、「利用していない」(90.4%)が9割以上を占めています。
- 小学生でも、「利用していない」(97.7%)が9割以上を占めています。

■ 一時預かり事業の利用状況



## ② 一時預かり利用意向・利用目的

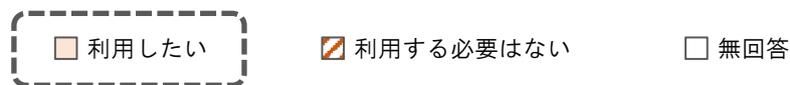
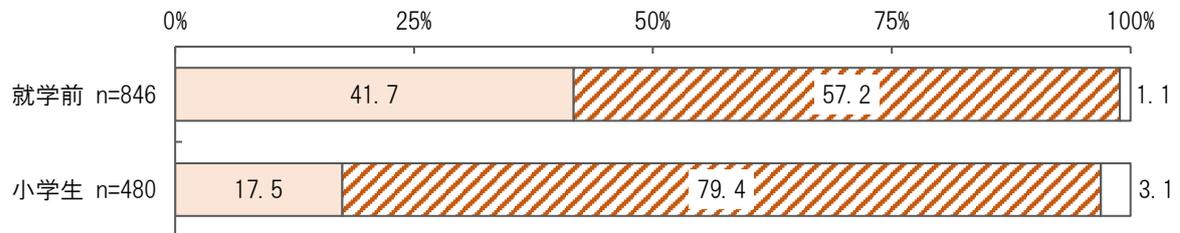
○一時預かりの利用意向をみると、就学前では、「利用したい」が41.7%、「利用する必要はない」が57.2%となっています。

また、利用したい人の利用目的は、「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等、リフレッシュ目的)」が75.9%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」が68.3%となっています。

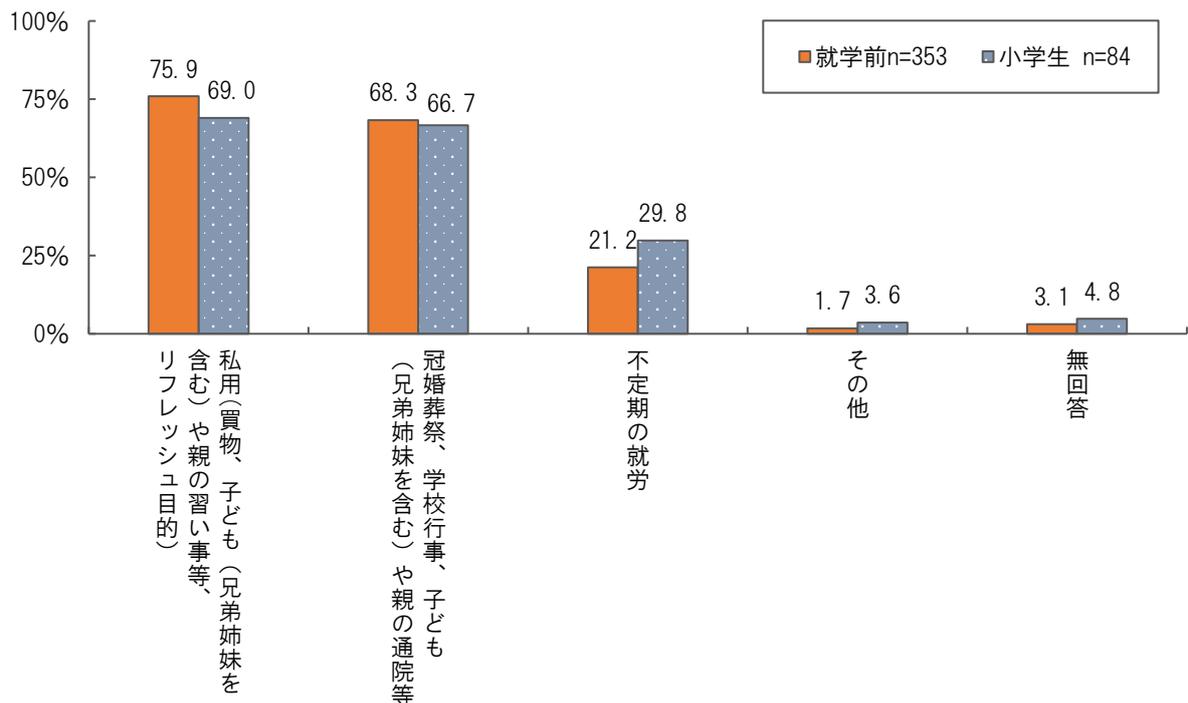
○小学生では、「利用したい」が17.5%、「利用する必要はない」が79.4%となっています。

また、利用したい人の利用目的は、「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等、リフレッシュ目的)」が69.0%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」が66.7%となっています。

## ■ 一時預かりの利用意向



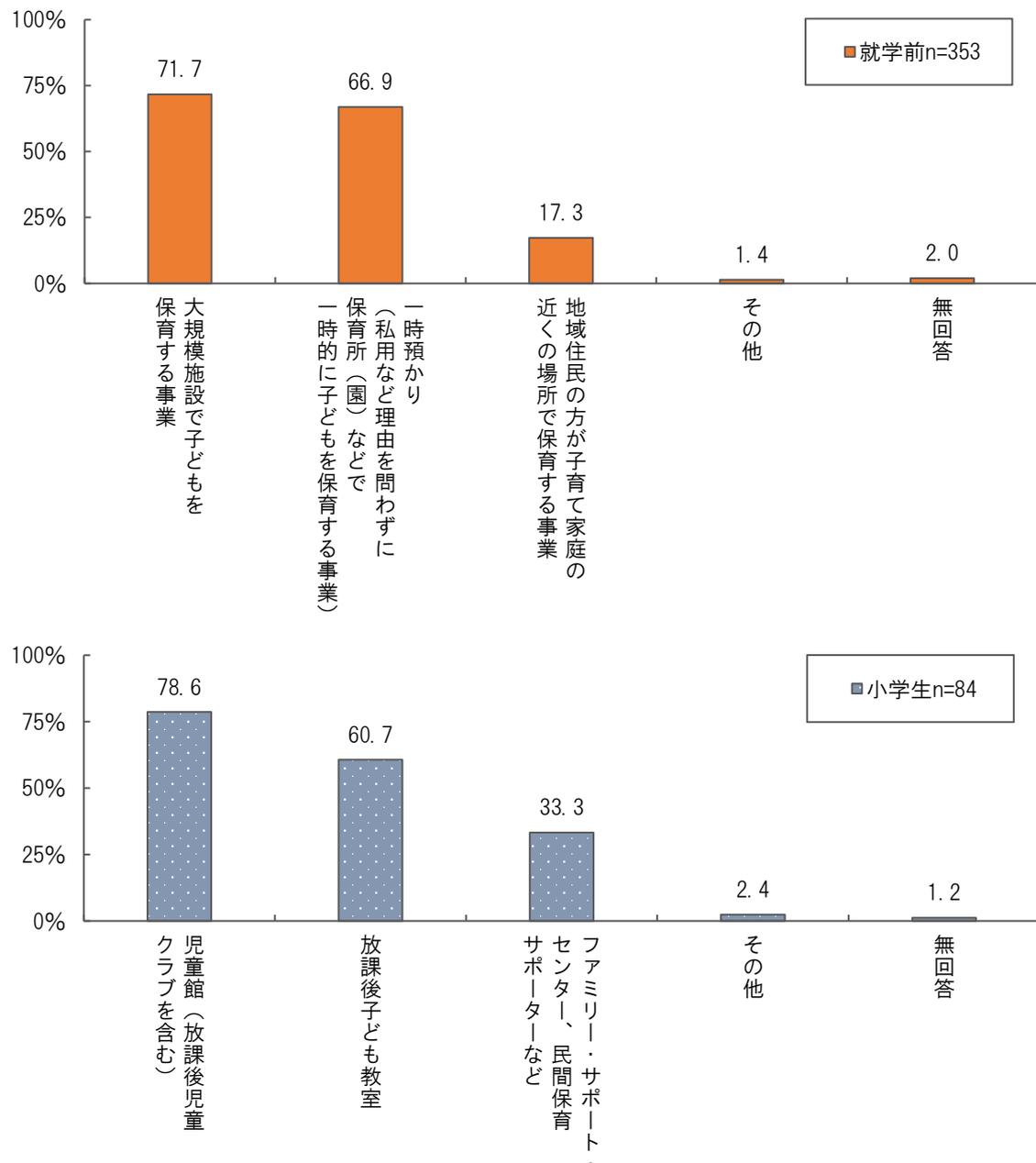
## ■ 利用目的



## ③ 一時預かりの望ましい事業形態

- 私用等で子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、就学前では、「大規模施設で子どもを保育する事業（例：保育所（園）・幼稚園・認定こども園など）」が71.7%と最も高く、次いで「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所（園）などで一時的に子どもを保育する事業）」が66.9%となっています、
- 小学生では、「児童館（放課後児童クラブを含む）」が78.6%と最も高く、次いで「放課後子ども教室」が60.7%となっています。

■ 一時預かりの望ましい事業形態

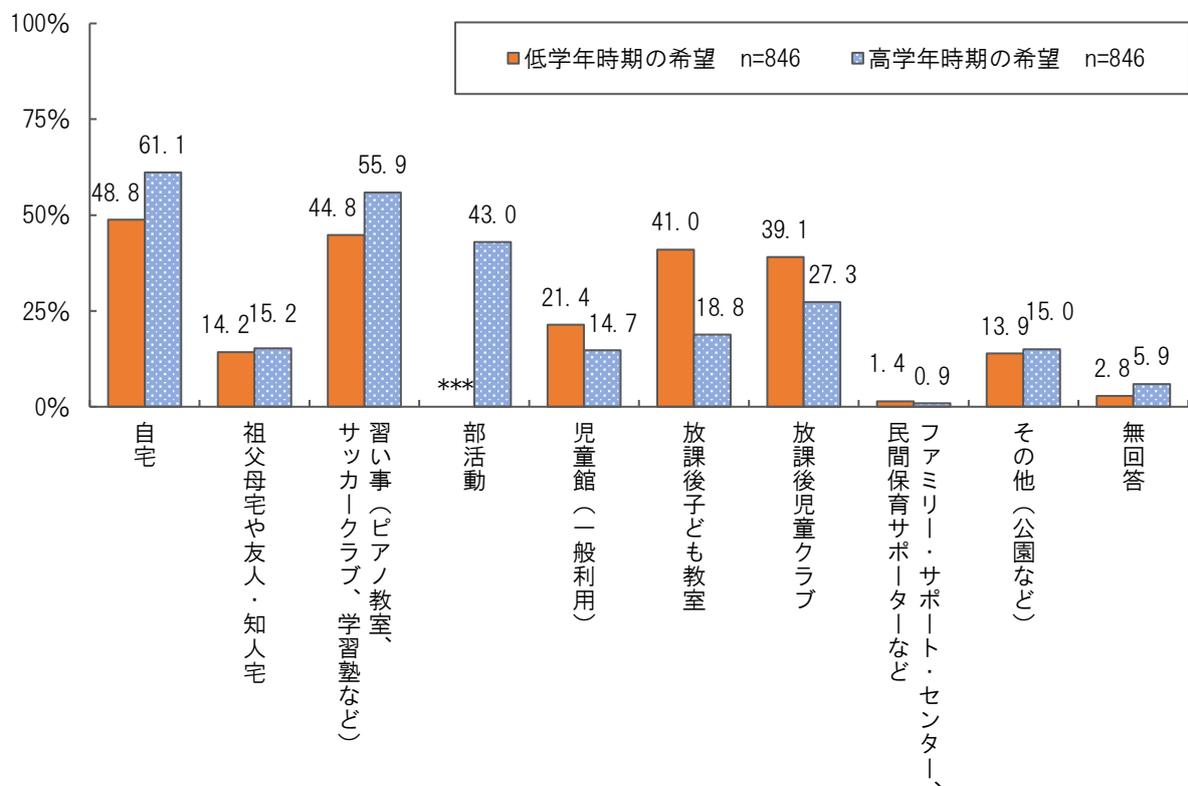


## (6) 放課後の過ごし方

### ① 就学前児童が小学生になった時に希望する放課後の過ごし方

- 希望する放課後の過ごし方をみると、低学年時期では、「自宅」が48.8%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(44.8%)、「放課後子ども教室」(41.0%)、「放課後児童クラブ」(39.1%)となっています。
- 高学年時期では、「自宅」が61.1%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(55.9%)、「部活動」(43.0%)となっています。

#### ■ 希望する放課後の過ごし方【就学前】



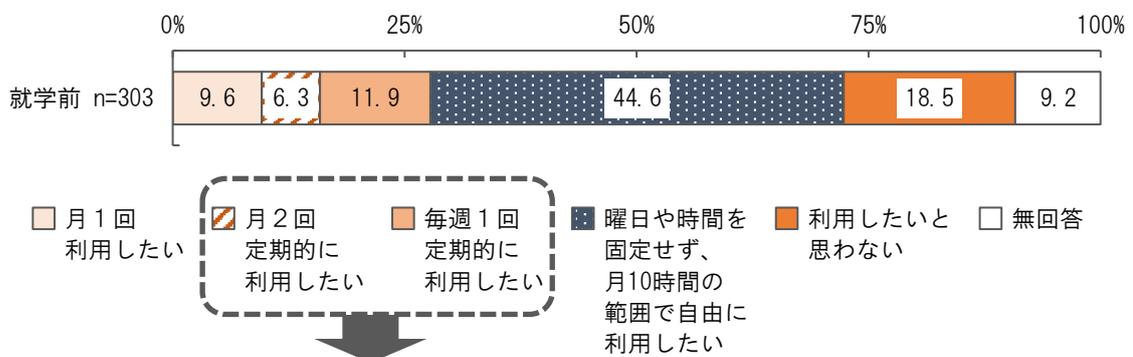
※「部活動」は低学年時期の希望の回答選択肢にはありません。

## (7) 「こども誰でも通園制度（仮称）」

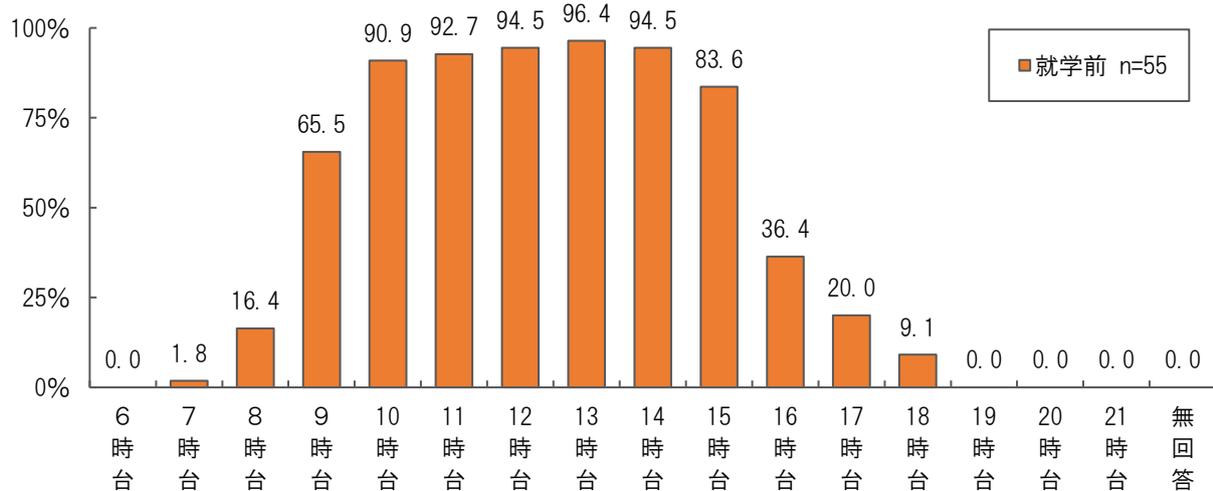
### ① 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向

- 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向をみると、「曜日や時間を固定せず、月10時間の範囲で自由に利用したい」が44.6%と最も高く、次いで「利用したいと思わない」が18.5%となっています。
- また、「月2回定期的に利用したい」（6.3%）と「毎週1回定期的に利用したい」（11.9%）を合わせた“定期的な利用希望者”は18.2%となっています。
- “定期的な利用希望者”の利用希望時間帯をみると、「10時台」～「14時台」は9割以上が利用を希望しています。

#### ■ 「こども誰でも通園制度（仮称）」の利用意向



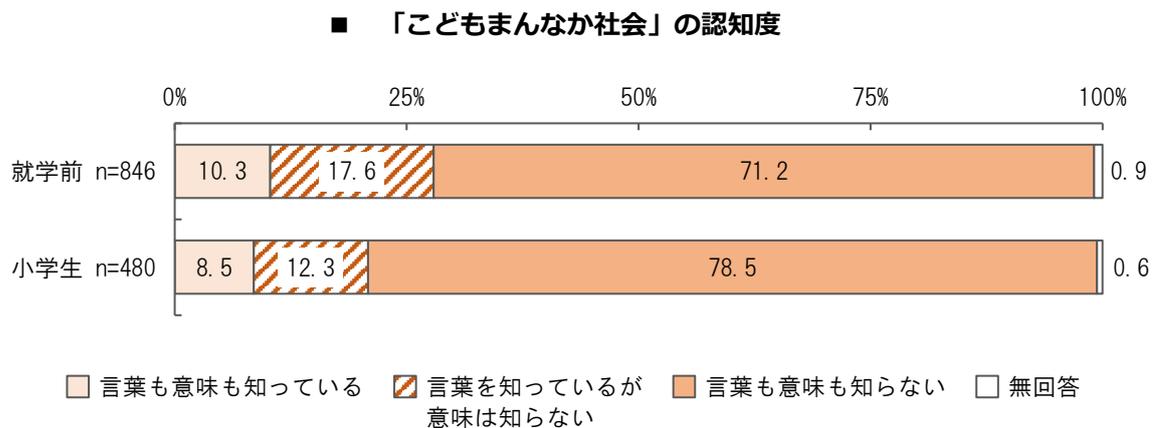
#### ■ 定期的な利用を希望する際の利希望用時間



## (8) 子育て環境全般

### ① 「こどもまんなか社会」の認知度

- 『こどもまんなか社会』の認知度をみると、就学前では、「言葉も意味も知らない」(71.2%)が7割以上を占め、「言葉も意味も知っている」は10.3%、「言葉を知っているが意味は知らない」は17.6%となっています。
- 小学生では、「言葉も意味も知らない」(78.5%)が約8割を占め、「言葉も意味も知っている」は8.5%、「言葉を知っているが意味は知らない」は12.3%となっています。



## ② 公立保育園の民営化

○公立保育園の民営化についての考えをみると、就学前では、「民間の方が保護者ニーズに対応したサービスを提供してくれる」が22.7%と最も高く、次いで「民間の方が園ごとに個性あるサービスを提供してくれる」が21.4%となり、肯定的な意見の割合が高くなっています。

■ 公立保育園の民営化についての考え

